



日高山脈博物館だより

HIDAKA MOUNTAINS MUSEUM NEWSLETTER

日高山脈博物館は「ジオ・ミュージアム」
道内唯一の地質と岩石の登録博物館！

通算 第66号

2021.2.

博物館資料の紹介「アオトラ」

有名になってきた「アオトラ」に関する、地質学的・岩石学的な観点からのコラムです。

「アオトラ」は、平取町付近で産する、緑色と紺色や淡緑色と濃緑色と表現される縞模様が特徴の鑑賞石の呼び名でした。もっぱら額平川から得られる転石が利用され、硬い緑色または淡緑色層と、軟らかい紺色または濃緑色層とがなす凹凸の顕著なものが特に重用されています。この「アオトラ」は、現在は三内丸山遺跡など北海道内外の縄文時代の遺跡から発見される石斧の材料としても有名になっています。「アオトラ石」と呼ばれている場合もあります。

「アオトラ」の考古学的側面の最近の報告としては、2014年、額平川支流のシドニ川上流に、「アオトラ」の大規模露頭が「初めて」発見され、それを「研究者が確認した」のは初であるという報道（北海道新聞、2014年3月17日朝刊、日高版）がありましたが、岩石学的・地質学的には、それよりはるか以前の1987年に、岩石学・地質学の研究者である渡辺氏・新井田氏による額平川やシドニ川の緑色岩についての報告があり、その「アオトラ」の露頭は、神居古潭帯白亜紀付加体の緑色岩の露頭として記載されています¹⁾。

2007年、前川氏の三内丸山遺跡から発見された「アオトラ」製の磨製石器（石斧）そのものの岩石学的報告では、三内丸山遺跡の「アオトラ」製の磨製石器に用いられた岩石は、石英・曹長石の細粒結晶の集合体からなる基質中に針状のアクチノ閃石が不定方向に発達して綾織り状になっている特異な組織をした、片理のない緑色岩で、鉱物として、アクチノ閃石と粒状の緑れん石、少量の緑泥石、チタナイトを伴うことが示されています²⁾。さらに2015年の前川氏ほかの報告では、平取桜井遺跡、苫小牧静川遺跡、千歳市美々貝遺跡から出土した「アオトラ」製とされる緑色磨製石斧についても岩石学的検討をし、それぞれ三内丸山遺跡の「アオトラ」製磨製石器と同様の岩石学的特徴であることを示しています³⁾。これらの「アオトラ」の岩石学的特徴は、1987年に渡辺氏・新井田氏が報告した、シドニ川（シドニ川）～オソウシ沢地域で見られる白亜紀付加体の緑色岩類の岩石学的特徴と一致するものです。

なお、そのような岩石学的特徴を持つ緑色岩は、例えば、南富良野町落合地域や日高町沙流川周辺、新冠町新冠川など、北海道内で白亜紀付加体の分布する地域でも確認できます。そのような同様の地質的成り立ちを示すような地域では、見た目が「アオトラ」のような岩石が発見される可能性も高いのではないのでしょうか。（私信ですが、すでに発見報告もあり、「アオトラ」のような実物の岩石を見えています。これらについては、調査研究を進めていきたいと考えています。）



引用文献 1) 渡辺敬三・新井田清信, 1987, 神居古潭帯額平川流域の緑色岩類. 地球科学, 41, 151-164. 2) 前川寛和, 2007, 三内丸山遺跡の磨製石斧の岩石学的特徴と石材産地特定の可能性について. 特別史跡三内丸山遺跡年報, 10, 15-27. 3) 前川寛和ほか, 2015, 三内丸山遺跡出土の緑色磨製石斧の岩石学的特徴とその原産地. 日本地質学会第122年学術大会要旨, R2-O-6.